

発行日 令和2年3月15日

発行者 島根県保育協議会

編集者 総務広報委員会

## 令和元年度活動報告

### 総務広報委員会

認定こども園あさりこども園  
相山 慈

外国にルーツを持つ子どもの受け入れの現状について、特に受け入れ人数が多い出雲市の3園で取材にご協力いただき、県協だよりに掲載しました。

また保育園の現状だけでなく、出雲市役所の子ども未来部保育幼稚園課が受け入れに関して力を入れていることについても合わせて掲載しています。

### 研修委員会

いわみ西保育所  
山崎恵美子

今年度は、前年度の研修委員会が決まっていた研修のお手伝いをさせてもらい、研修を受ける機会が多くあったこと、いろいろな人と出会えたことが、自分にとってプラスの事ばかりでした。その経験を来年度に良い形でつなげていければと思っています。

### 予算対策委員会

みどり保育園  
岩倉 善光

幼児教育・保育の無償化等、目まぐるしく制度が変わり、当県では県知事も交代されました。大きな変化の中、会員の願いを伝えたいと今年度も要望活動に取り組みました。

今後も三団体で協力して活動していきたいです。

### 公立施設長部会

渡津保育所  
佐々木文子

不安と緊張の中、受けた公立部会長で、委員会では研修委員としてスキルアップ研修に携わりました。研修会や講演会など理事や事務局の方々の尽力があっただけでなく、感謝し、保育協議会員である私たちがもっと活用しなければもったいないと感じました。

今年度は受けた役をこなすので精一杯だったので未来は少しでも会のお力になれるように頑張りたいと思います。

### 私立施設長部会

認定こども園比津ヶ丘保育園  
松本 元次

私立施設部会会長として、たくさんの関係者の皆様との関わりの中で様々な経験させていただいた1年間でした。特にグラントワで行われた施設長研修会では、企画・運営に加え、指針にありますように「施設長の責務と、専門性の向上」について改めて考えさせられ、改めて責任の重さを痛感いたしました。

### 保育士部会

かきのき保育所  
植村 千絵

子どもを語り、保育を語り、組織の在り方を大いに語った一年でした。

たった一人の力は限られるけれど、良いチームワークの中でのマンパワーはものすごい力を発揮することも実感しました。

全国保育士大会においての島根県保育協議会 One team に感謝の声が届いています。

皆様、本当にありがとうございました。

### 調理担当者部会

あすなる保育園  
土次あゆみ

7月に開催いたしました食育推進研修会は、右も左もわからない中、部員で協力して無事に研修を終えることができ、一つ事業を成し遂げた自信にもなりました。来年度も力を合わせて頑張りますので、よろしくお願いいたします！

### 人材育成プロジェクト

遠田保育園  
佐々木 白文

メンバーも代わり装いも新たにスタートプロジェクトは、今年度からの2年間、「人材確保」を大きなテーマとして、福祉人材センターと情報提供や共催事業について協議を進めてきました。引き継ぎ、福祉人材センターと協力し、潜在保育士の掘り起こし並びに養成校との連携強化に努めてまいります。

# 外国にルーツを持つ子どもの受け入れについての保育の現状

今回は外国にルーツのある子どもの受け入れについて、出雲市の保育園を取材し紹介させていただきました。取材に協力して頂いたのは、ブラジルの子が多く入園しているわたりはし保育園、あすなろ保育園です。今回はブラジルだけでなく、インドネシア、バングラデシュなど複数の国の子どもが入園しているひまわり第2保育園、そして出雲市子ども未来部保育幼稚園課を取材させて頂いた内容を報告します。



1995年からすでに外国にルーツを持つ子どもの受け入れをしている。当時は国籍も複数でなく、年間1名程度の在籍だった。

現在は0歳児から5歳児まで各クラス1～2名の外国にルーツをもつ6名の子どもが在籍しており、国籍はインドネシア、フィリピン、バングラデシュ、ブラジル、モンゴルと5か国に及ぶ。

## 言葉について

- 保護者の中には日本語は話せないが英語は堪能な方もおられる。
- 保護者の中にポルトガル語を通訳できる方がおられ、伝わりにくさを抱えている保護者の仲立ちになってくれている。
- コミュニケーションツールとしてタブレットを使用し、英語やポルトガル語の翻訳アプリで訳してお知らせ等伝えるようにしているが、相手にきちんと伝わっているか不安。  
相手がうなずいたり、理解できた様子の時は良いが、首をかしげたり理解できていない様子の時に困ることがある。  
必要な時に来てくれる通訳者が欲しい。
- まだ使い始めてはいないが、市の方からコミュニケーションツールとして、イラストと単語のついたプリント集を用意して頂いた。今後はそれも使用し、さらにコミュニケーションがとりやすくなることを期待。
- 子ども同士の友だち関係は良好。言葉が通じなくても遊び、その中で日本語も少しずつ獲得していく様子がある。

## 食事について

- イスラム教徒の家庭の子どもは肉類全般と肉エキス、アルコールは宗教上食べることを禁止されている。  
肉が混ざっている料理やアルコール（本みりんなど）は調理工程で除去して提供しているが、から揚げや照り焼きのように肉がメインの食事の日は家庭で調理した肉料理を持ってきてもらっている。  
毎月の献立表で肉がメインの日をあらかじめ知らせ、調理したものを持って来て頂いている。

ちなみに、イスラム教の戒律によって食べることを許された食べ物を『ハラールフード』と言い、出雲市内ではその『ハラールフード』を販売しているスーパーもある。豚肉は不浄のものとなされ、一切口にすることはできないようですが、牛や鶏はイスラム教の教えに従った方法で屠畜・加工された肉は食べることができ、そのように加工された肉はシールが貼られ、わかるようにして販売されている。

## 保護者対応について

- 入園児の面談や出雲市独自の4歳児面談では市から通訳が来てくれるが、ほぼ園で対応  
0歳児でイスラム教徒の子どもが入園されたケースの時には、離乳食のことも詳しく聞き取りたかったので面談に1時間かかった。しっかりと話が出来たので、一般に使用している育児用ミルクは動物性油脂が使用されているため飲むことができず、保護者の方から指定されたミルクを提供した。
- 入園当初慣れるまでは涙が出る日々で、抱っこすることしかしてあげられず、保護者の方が抱える不安も大きいと察するが、思うように対応できない。ブラジル国籍のお子さんの場合は、通訳のお母さんの協力もあっていろいろと様子を伝えたり、対話することができた。
- 行事等へはどの保護者も積極的に協力、参加してくれ盛り上げてくれる



この日は、みんなでもちつきを楽しんでおられました。



多国籍の子どもを受け入れてきた中で、互いの意思疎通や子どもの内面の育ちを伝えていく難しさを日々感じ苦労を重ねてきたが、世の中には色々な国があって、色々な人がいるということ子どもたちは身近に感じることができる。言葉の壁、文化の違いはあっても色々な人が混じり合って生活していくことで、子ども達は何にも代えがたい多様性を学んでいく、それが素晴らしいことではないだろうか。

## 出雲市の取り組みについて

2016年に「多文化共生推進プラン」を策定し、外国にルーツを持つ人にも暮らしやすいまちづくりを進めている出雲市。そんな出雲市が外国にルーツを持つ子どもの受け入れのためにどんな取り組みを行っているかを、出雲市役所で伺ってきました。対応して下さったのは、子ども未来部保育幼稚園課の方々です。

出雲市は、外国籍の子ども及びその保護者との意思疎通を円滑にするための体制整備を進めておられ、以下の5つのことに取り組んでおられます。

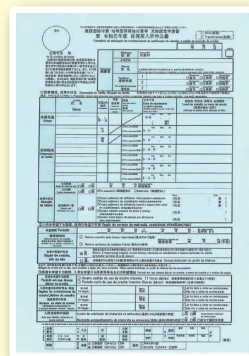
- ①入所申込書類等の翻訳
- ②入所（予定者含む）保育所からの文書翻訳
- ③保育所幼稚園入園説明会の開催
- ④多言語通知文書作成ツールの提供（作成中）
- ⑤指さしコミュニケーションシートの提供（作成中）



## ①②について

出雲市役所子ども未来部にはポルトガル語の翻訳や通訳をする職員が1名おられ、その方が入所申込書等の翻訳を担当しています。書類が複数枚あると出し忘れが起こりやすくなるため、可能な限り1枚にまとめる工夫もされています。

入園後に保育園と保護者のコミュニケーションのために通訳のサポートも行っていますが、1名しかいないため、全ての要望に応えることは難しいのが現状のようです。



①②の書式(例)

## ③について

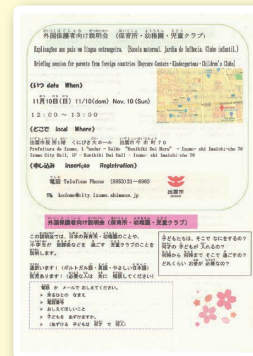
外国人向けの入園説明会を年1回開催しています。全て個別に対応していると1名の職員では追いつかないため、日時を決めて集まってもらい、そこで対応しているそうです。

## ④⑤について

現在作成中のものを見せてもらいました。

④は各園で共通して行われる行事(入園式や運動会等)の案内文書を、園名や日付を入力することで簡単に多言語に翻訳した文書を作成してくれるものです。

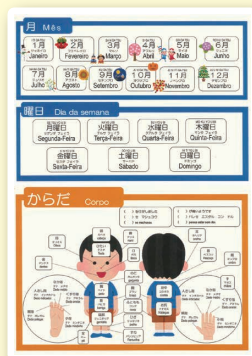
⑤はシートに書かれた文字や絵を指さしながら会話することで、連絡事項や子どもの体調等を正確に伝え合うことができるものです。複雑な会話には向きませんが、確実に伝えたいことがある際にはかなり有効なツールだと思います。



③の案内文(例)



④の作成ツール(例)



⑤のコミュニケーションシート(例)

①～⑤の取り組みで使用されている資料については下記のQRコードを読み取って参考にしてください。  
(又は島根県保育協議会のHPをご覧ください。)



こうした取り組みを行っていますが、これで十分とは思っておられず、保育園から特に要望の多い通訳者の増員はこれからも課題であると考えておられました。ただ、通訳ができるひとであれば誰でもいいわけではなく、例えばブラジルの文化や生活習慣がわかり、その上で保護者と信頼関係を結べる人でないと保育園とのつなぎ役になることは難しいため、通訳者の増員は簡単ではないことがわかります。

この他にも課題の多い外国にルーツを持つ子どもの受け入れですが、言葉や文化の違いを楽しみながら受け入れ、保育園や保護者の声も聞きながら、少しずつでも課題解決に向けた取り組みを進めていきたいと話しておられたのが印象的でした。多文化共生プランの目的でもある「共に暮らしやすいまちづくり」の実現のために、保育園での子どもの受け入れは益々重要になってくるはずです。出雲市の今後の取り組みに注目していきたいと思います。

## 編集後記

多国籍のお子さんの受け入れを20年以上前からされていたお話が聞けたひまわり第二保育園、外国籍の方の住民対応を思案しおられる出雲市役所様。保育現場と行政対応と、それがうまく繋がり噛み合った時の安心感を想像するとワクワクしてくる2ヶ所の訪問でした。ひまわり第二保育園で各年齢毎でおられる外国籍のお子さん方の「短期の入所期間の場合もあるけれど気になるトラブルはない。」とお話と、子どもたちと保護者の方の笑顔が重なりました。きっとその都度、いい出会いを先生方が創っておられるのでしょう。気持ちって伝わりますよね。

日本社会の状況は外国の方の就労に期待する部分がますます多くなってきているように感じます。縁あって自園に外国籍のおさんが来られたとき、にっこり穏やかにお迎えしたいですね。そんな準備と心持ちはきっと園児全員の過ごしやすい場所づくりもつながると思います。わあ～、ますます園づくりが楽しくなりますね!“チーム島根県保協”エイエイオー!